第５回　釧路市子ども読書活動推進計画策定委員会　議事要旨

■開催日時及び場所

令和５年２月１日（水）　１６時００分～１７時００分

釧路市中央図書館　７階　多目的ホール

■主な議事

（１）パブリックコメントの実施結果について（報告）

（２）新計画の最終案について

（３）今後のスケジュールについて

■結果

議事（１）について、事務局案の一部修正を行い、実施結果として公表することとなった。

議事（２）について、委員から指摘があった表記について修正を行い、最終案としてまとめることとなった。

■発言要旨

議事（１）について

委　員:「教育委員会が学校長を学校図書館の館長に指名することも有効」と書いてあるが、学校図書館ガイドラインには学校長はもともと学校図書館の館長としての役割を担っていると書かれている。その点を校長がどれだけご存じか分からないため、校長会等で話をしてもらえると嬉しい。

事務局：ご指摘があった点については、機会を捉えて話をさせていただきたいと思う。その上で、事務局案の市の考え方は適切な記載の仕方ではないと思うので、ご意見を参考に修正を行う。

議事（２）について

委　員:「障がいを持つ子」という表記もどうかと思う。障がいは自分で好んで持っているわけではないので、「障がいがある」という表記の方が良いのではないか。また、「障がいを持つ」「特異な才能を持つ」の「持つ」は目に見えないものをもっているとするときはひらがな表記を用いることが一般的と聞いたことがあるため検討願う。

事務局：ご意見を参考に修正を行う。

委　員：小中学校で「ブクログ」というアプリを使えるようになった。自分が読んだ本をアプリ内の本棚に並べることができ、色々な人と本棚

の共有を行えるので、読書の輪を広げていくことができる。そういったものの活用も読書の推進には効果があるのではないか。

委　員：まずは学校図書館協会の中でアプリの活用等の話をして、浸透させていくという方が現実味があるのでは。

委　員：学校図書館協会の中で周知方法等について検討していきたい。

委　員：「小中高生読書アンケート」について、来年度以降、マンガやタブレットを含めていく等、アンケート内容は変化していくのだろうか。

事務局：策定委員会での議論の中でもそういったご意見をいただいているので、アンケート内容の変化はあり得る。アンケートは中間年と最終年に取っているので、この計画を推進する中でアンケートの取り方についての検討も行っていく。

※検　討：「計画の目標として学校図書館の充足率を求めた方が良いか」

委　員：充足率も大切だと思う。20 年も 30 年も前の本が並んでいる図書室には魅力がないというのが現実。学級文庫もあるので、学校での読書活動の拠点は図書室ではなくても良いと思っている。

委　員：７～８年前の教育懇談会で秋田県での読書の取組の話を聞き、学級文庫に取り組み始めた。低学年の子は図書室に行っても古い本が多いためどんな本を借りたら良いか分からない子が多く、図書室には決まった子しか行かない。図書室で本を読むというよりは、子どもたちの近くに本がある環境をつくっていけたら良いと思う。

委　員：本校の図書室でも端の方の本はいつ触るのだろうかという状況が正直見られる。この策定委員会で課題としたことは「学校図書館の充足率」ではなく「いかに読書に親しんでもらうか」だと思う。

委　員：充足率をハードとして捉えるなら、我々が考えているのは読み聞かせやブックトーク等のソフトをどうしていくか。あまり充足率にこだわって進めていくと、本が 100 冊あれば子どもたちは読書をするようになるのかということにも繋がってしまう。

議事（３）について

質疑等なし

担当課・係　生涯学習課生涯学習担当